

家庭科

家庭科における令和6年度の授業改善推進プランの検証

取り組みの成果と課題

【成果】

- ・衣食住の生活に必要な製作活動に意欲的に取り組み、自立した生活の実践につなげることができた。
- ・生活に役立つ物の製作、調理を通して、自身の健康や生活に興味をもち、習得した技能を日常生活で活用する様子が見られるようになった。

【課題】

- ・家庭の実態や生活体験に差があるため、実態に応じた事前学習や指導が必要である。
- ・衣食住の生活に役立つ基礎的な知識の習得や家庭生活を工夫しようとする実践的な態度の育成については、児童の生活課題を意識させて、継続して培うことが必要である。

家庭科における課題

- ・自分の成長を自覚することを通して家庭生活をより良くしようとする意識と、家族の一員としての自覚をもたせること。
- ・衣食住の生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付け、家庭生活をより良くするために、自分なりに工夫しようとする課題解決力や実践的な態度を身に付けさせること。
- ・調理の学習において、家庭と連携をとり、学校で得た知識を家庭で実践できるようにすること。

家庭科における改善策

- ① 自分の成長を自覚することを通して家庭生活をより良くしようと、家族の一員としての自覚をもたせること。

高学年

- ・自分の成長を自覚することを通して、家庭生活をより良くしようとするに関心をもたせるために、家族と家庭生活の大切さに気付かせ、食事や家庭の仕事を共に行うことで家族との触れ合いや団らんを楽しくするための工夫を考えられるようにする。
- ・家族の一員としての自覚をもたせるために、家族との会話や触れ合う場と時間を生み出す方法や楽しくする方法を見だし、普段の触れ合いや団らんの時間をより楽しく工夫することで、家族の心のつながりが深まることに気付けるようにする。
- ・家族、家庭生活の大切さに気付き、生活に生かしていくために、仕事と手伝いの違いに気付かせ、一時的なものではなく、分担した仕事に責任もって取り組めるようにする。そのために、具体的な計画を立てられるようにしたり、長期休業を利用したりして、繰り返し取り組むことを大切にする。

- ② 衣食住の生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付け、家庭生活をより良くするために、自分なりに工夫しようとする課題解決力や実践的な態度を身に付けさせること。

高学年

- ・実践的、体験的な活動を重視する活動を通して、知識だけでなく技能も身に付けられるようにする。
- ・生活に役立つ物の製作では、一つ一つの作業に丁寧に取り組む大切さを指導していくことで、作品が完成したときに達成感を味わえるようにする。また、一人一人がオリジナルの作品を作ること、製作への自信や作品への愛着を高め、衣食住の生活に活用しようとする意欲や態度につながるようにする。
- ・実践的、体験的な活動では、視覚的に分かりやすい資料を活用し、基礎的な知識・技能の定着を図り、確実に理解できるようにする。

- ③ 調理の学習において、家庭と連携をとり、学校で得た知識を家庭で実践できるようにすること。

高学年

- ・学校では動画などを活用することで、調理の基礎・基本について視覚的に理解できるようにする。
- ・学校で立てた調理の計画を、家庭と連携して実践することで、技能を身に付けられるようにする。